

# かけはし

№0 千住文化普及会  
(会員/協賛会員募集中)

平成19年2月1日  
千住文化普及会発行  
代表理事 榎原文夫

東京都足立区千住河原町29-5  
遊学庵 〒120-0037  
TEL/FAX: 03-3881-3232  
E-mail: info@basyoo.net  
http://senju.mizubasyoo.com/  
編集協力: HOPBOX、studio NIPPON、  
足立表象文化研究室

第五回 千住文化基礎講座

千住モダン

二一日(日) 第五回目の講座は「千住モダン」。講師の多田文夫氏(足立区郷土博物館学芸員)にとっても珍しい演題であり、明治、大正、昭和の千住についてまとめて語ることは、これまでほとんどなかったという。「足立風土記」の編集担当者だった大久保美智子氏も、千住地区については対象が膨大であることもあり、聞き取り調査は不十分であったと語っている。当会の伝承、記録活動が大いに期待される分野である。



ハッピーの似合う千住の世話人たち  
左から二人目・千寿七福神事務局・永見富次氏

千住モダンは、①「宿場と市場の町」の性格を色濃く残し、宿場の外は水田地帯であった明治初期から、②度重なる水害から「帝都」を守る大工事・荒川

放水路(現荒川)の建設により水田が消失し、市街地が拡充した時期、③工事途中に起きた関東大震災の影響で人工流入と宅地化が急速に進み、震災からの復興計画の一環である「大東京」構想に組み込まれ発展した時期、④戦後の復興期から現在まで、

明治の洋風化した暮らしを支える地域として、現千住中居町に牧場ができ、「日本に初めて生まれた低温殺菌牛乳」を供給した。千住青物市場(やっちゃ場)は、江戸時代から続く問屋街の伝統を引き継ぎ、鉄道網、舟運網の発達に伴って一部は海外にまで商圏を拡大する。鶏肉の値

歳旦三つ物

去年今年千寿の恵み享けにけり  
猪口を回して誘う文音  
宝貝門出の浜の遠近に  
添田葦生

荒神もねずみに分ける雑煮かな  
初湯に集うへそも笑顔で  
春の夢料なねえちやん寅がいて  
坂本砂南

鏡餅飾り射初めの日和かな  
春着肌脱ぎ狙う新的  
連句みち翁に学び一歩づつ  
中山蟻十

一夜にて新品になる初日かな  
めでたく厄も全明の春  
赤子舐むる鶯餅の味がして  
浅賀丁那

珍陀酒のぐらすに揺るる去年今年  
朋のつどへば歌留多とる宵  
月も花も猪も胡蝶も臍にて

段は千住で決まるとまでいわれ、貨車により魚も集積され、現在の東京都足立市場の前身となっていく。大正期から「工場町」「職工さんの町」と呼ばれ、恐慌時には労働争議も多発した。勤労世帯が増加し、都電が走り、雑踏の賑わいを見せるとともに、町のたたずまいも大幅に変化する。そして、それぞれの時代を背景として、森嶋外、内田銀蔵、河合栄治郎らの文豪、学者を輩出し、さまざまな芸術家が文章に絵画に千住を舞台とした表現を残していることが示された。

最後に「千住の空襲」について触れられた。B29で千住の空襲に加わった当時一八歳だった米兵が、撃墜された戦友の消息を求めて千住に来訪したことがあったという。彼が多田氏に語ったところによれば、作戦は軍事施設を破壊するというより、「隅田川工業地帯」とみなした軍需を支えた町工場一帯を焼夷弾で焼き払い、住民の戦意喪失を狙うのが目的であった。

千住空襲・戦跡展示会への思い

日向ぼつ子

日に映えた瓦礫の中に二つの土蔵だけが聳え立っている写真は、空襲を受けた直後の千住のものだった。庭のない我が家などは、

戦争中の「銃後の守り」の意味が雲散霧消と化している現在、戦争に対する人々の認識は明らかに風化している。歴史を学ぶ「戦争を知らない子供たち」世代としては、写真とともに戦争を肌で感じた人々からの話を聞き、平和の礎として後世に伝えなければならぬ。桜の散る季節、四月十三・十四日、千住が空襲を受けた記念の日には催される予定の展示会をぜひ成功させたい。

北千住空襲罹災の記録・仲町界限



- <活動日誌 平成18年1月>
- 1日(日) 「かけはし」7号発行
  - 2日(月) 千住七福神巡り
  - 8日(月) 足立区「はばたけ! 盛人フォーラム」出展参加
  - 11日(木) 遊学庵/全体会/講座準備
  - 21日(日) 学びピア/[第5回千住文化基礎講座]
  - 28日(日) 遊学庵・向島百花園/第9回千住塾連句会

【千住空襲・戦跡展】  
四月二三日(金) から二五日(日) まで  
マルイ北千住店ビル内  
シアター1010ギャラリーで開催予定